

# 地域活性ドローンプロジェクト

教育・研究

ボランティア

課外活動

地域交流

代表者：人文学部社会科学科 3年 正田 真悟

## 連携先

石岡市  
茨城県内で活動するイベント団体  
茨城県内の宿泊施設

## 顧問教員

百瀬 宗武（理学部・教授）

## 参加者

正田 真悟（人文学部社会科学科 3年）  
三瓶 克彦（人文学部社会科学科 3年）  
大畑 和樹（工学部知能システム工学科  
1年）  
綿谷 直樹（工学部知能システム工学科  
1年）  
塚原 裕太（工学部電気電子工学科 3年）  
鴨志田浩大（工学部知能システム工学科  
1年）  
高橋 寛道（人文社会科学部現代社会学科  
1年）  
高原 大輔（工学部機械工学科 1年）

## プロジェクトの概要

### ●プロジェクトのテーマと背景

このプロジェクトは、茨城大学航空技術研究会が主導となるものである。私たちは、日頃研究している航空技術の知識や技能を活かして、茨城県の地域活性化に貢献したいと考えている。

近年、ドローンの普及で空撮が身近なものとなりつつある。上空や人が立ち入れない場

所など、通常の視点とは異なる視点からの撮影が可能であり、大規模商業施設や観光地のPR動画に使われ始めている。しかし、未経験の個人が撮影する場合、法的な規制が多く、また操縦技術の熟練には時間がかかる。業者に頼むと費用も高額であるため、NPOや地域の小規模イベントなどにおいてはあまり活用できていない現状がある。

地域活性化や地方創生の流れの中、地域の観光に力を入れる動きは加速しているが、広報においては遅れをとっていると言わざるを得ない。

国土交通省航空局より飛行許可を特別に受け(既に来年5月までの許可を取得済み)、高い技術力・知識を有し、イベント時の空撮においても人員を多く確保できる我々がそれらの問題点を解決し、地域のイベントに先進的な広報手段であるドローン空撮を導入する。

### ●プロジェクトの目的

ドローンによる空撮を通して、地域社会に貢献する。

## プロジェクトの成果報告

### ●当初予定していた空撮事業に関して

今回プロジェクトにおいては、当初予定していた地域連携先（県内のイベント団体、宿泊施設など）と空撮を行うことはほとんど無かった。その主な理由は、天候不良とそれに伴うイベント自体の中止や撮影条件不良である。空撮においては精密機械であるドローン

を飛行させるため、雨や強風の際には航空法上、また安全上の観点から飛行させることが出来ない。そのため、イベント自体は開催されるコンディションであっても、飛行をすることが出来ないという状況も度々発生した。なお、予定していた事業が行われなかったため、採択された補助金についても全額未使用となった。この点について、次年度以降は更に多くの連携先を作り、当初予定が実行されないという事態を避けたいと考えている。

また、プロジェクトの目的である「ドローン空撮を通じた地域社会への貢献」を実現するため、実施前に予定されていた連携先以外との空撮も行った。インターネット上のHPにて、空撮依頼を受け付けた。

以下に、当初は予定されていなかったが、実行することとなった事業について記述する。

#### ●市町村との災害時空撮協定の締結

近年、自然災害時における上空からの情報収集手段として、ドローンを活用する動きが高まっている。人が立ち入れない場所や危険な場所の情報収集が可能となり、迅速に災害に対処することができると期待されている。

2017年11月、私たち（航空技術研究会）は石岡市と、「災害時におけるドローンによる情報収集等に関する協定」を結んだ。この取り組みは、学内における学生団体が自治体と協定を結んだ初めての事例でもある。なお、この協定については翌日以降の新聞各紙（茨城、産経、朝日、読売、東京新聞）にも大きく取り上げられた。

#### ●市町村公式観光PR動画制作への協力

石岡市の公式PR動画において使用する為の映像を撮影した。市町村のPR動画にドローンを活用する例は多くみられ、私たちは石岡市内の観光地である「茨城県フラワーパ

ーク」など複数箇所の空撮を行った。なお、動画は2018年中にも公開される予定である。

#### ●反省と今後の展望

今回、地域社会貢献を目的とした様々な事業を行った。当初の空撮予定とは異なる形とはなったが、その目的は十分に果たされた。今後も、地域社会に貢献できるよう活動を継続していきたい。

課題としては、今後の活動継続のための人材育成があげられる。ドローンを活用した事業は、熟練した操縦者なしには成り立たない。今後も操縦者育成に励みたい。

#### ●各種メディア等

##### ・新聞

茨城新聞、産経新聞、朝日新聞、読売新聞、東京新聞など(掲載日順)。このうち読売新聞については「常陸人」コーナーにて特集記事。

##### ・ラジオ

IBS茨城放送「ムービングなう」コーナーにてプロジェクトの広報を行った。

##### ・学内情報誌

iUP「THE茨大生」コーナーにて特集記事。



茨城新聞2017年11月14日より。